

シュガースポット

夏休みのある日
私は一人
ある場所へと来ていた

ここは周囲が
木々で鬱蒼としていて
外からは見えない
お気に入りの秘密基地

多分この辺に

お

過疎化で近所には遊ぶ相手が
居ないので 日々野山を歩いたり
こういった場所で遊んでいる

居た

自然や色んな生き物と
触れ合って遊ぶのは
本当に楽しいから

一人でも
寂しくはないのだ

お外で裸って
ドキドキするよね…

おまけに最近
性的な楽しみを覚えてから
遊びの幅が広がった気がする

このままオナニー
しようかな？

今日は別の事を
するのだ

まてまて

この砂糖水を使って…



濃すぎたかな

ついでに身体にも
少し塗っちゃお

さて
本命は…

このオモチャを
おまんこに…



続いて
砂糖水をたっぷり
染み込ませたタンポンを

ホター



準備よし!

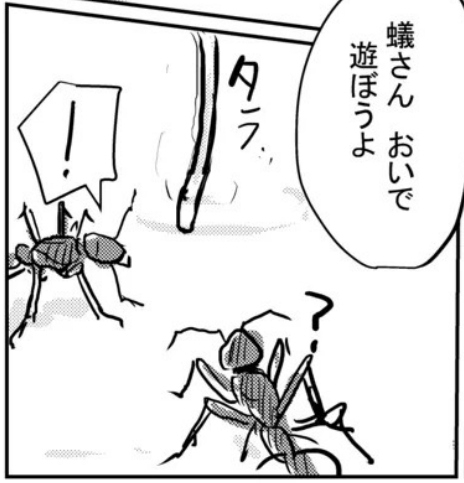
今日はどのくらい
楽しく遊べるだろうか

これでおまんこが
開きっぱだ

くおあ

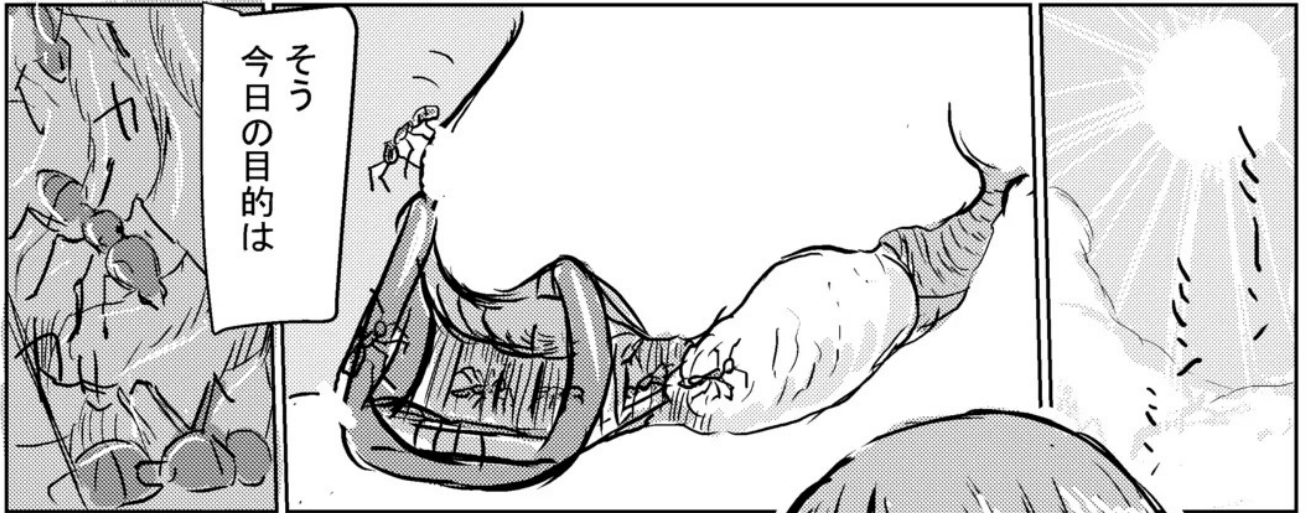


おまんこの奥深くへ
入れて 完成だ



蟻さん おいで
遊ぼうよ

タラ



そう
今日の目的は



ふふ…

いっぱい集まってきた

蟻さん達と
遊ぶ事だったのだ

蟻さんたちは
気に入ってくれたのか
思った以上に集まりだした

結果 おまんこは蟻さんで大渋滞
入りきらない子たちは
私の身体に塗った砂糖水を
舐めまわるのに体中を歩き回った

染み出した体液が
タンポンの砂糖水を溶かし
蟻さんがそれを舐める

私のナカで
彼らが蠢き
おまんこを刺激し

こそばゆいけど
蟻さんたちと遊ぶのは
とても楽しい

蟻さんは増える一方
うじゃうじゃ沢山

身体中
齧ったり引っ掻いて

一つ一つは
小さいけど

何百匹いるのかな

だめこれ
耐えられない

私…蟻さんに
身体中齧られて

ゴキヤッ

数時間に渡り何度も
絶頂を繰り返しているうちに
他の虫さん達まで集まってきた

今や私の身体は
虫さん達の
パーティー会場だ

大勢来てくれて
私は嬉しいけど 皆は
楽しんでくれてるのかな



暗くなってきたし
今日は帰るかな

皆遊んでくれて
ありがとうね

はー

あれ？ 蟻さん達
卵まで運び込んでる

私の身体が
蟻さんのお家にな
っちゃったみたい

嬉しいな これ
いつでも遊べるね

おわり